

(様式1)

令和6・7・8年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(1年次)【小学校】

【学校名等】

学校名	城陽市立寺田西小学校							校長名	西城 誠一
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	児童数	2 8 9 名
学級数	2	2	2	2	2	2	3		
事業担当教員名	中村 絢子								
① 中学校区で目指す子ども像	・互いに認め合い、自ら考え行動する 自ら考え学び合う子 ・人と人とのつながりを大事にし、お互いを思いやりながら高め合える関係性を築き、社会の中で生きる力をもった子 これまで中学校ブロックで研究を進めてきた「学び合い」を軸に ICT 機器を活用して、「自分で考える力」「自分で学ぶ力」をさらに育んでいきたい。								
② 目指す子ども像	・自分で考え、その考えを自分よがりではなく、他者との関わりの中で、さらによいものにしようとしたり、他者の考えを尊重したりする子ども。 ・学習や生活の中で他者との関わりが心地よいものだと感じ、他者との関わりの中で自分の考えを広げたり深めたりすることができる子ども。 ・人と人とのつながりを大事にし、自分と関わる人たちへの感謝の気持ちを持ち、よりよく成長しようとする子ども。								
③ 目指す子ども像に対する現状と課題	一人一人の学力保障を確実にに行い、仲間とともに高め合える児童を育むために「学び合い」を全校的に行っている。そのため、仲間と協力して考えることが自然にできるようになっている。分からないことを友達に聞くことに対しても抵抗はない。分からないことは恥ずかしいことではないという雰囲気が学級の中にあるのはとてもよいことである。 一方で、グループ活動の中で常に教える側と教えられる側が固定してしまい、自分の考えをもてなかったり、自分の考えを話せなかったりする児童もいる。答えが決まった問題だけではなく、どんな考えも尊重されるような話し合い活動をする中で、自分の思いを自由に表現し素直に伝え合い、考えを深めていくことが課題である。 またペアやグループ活動だけでなく、学年や発達段階に応じて、学び方（タブレット・本で調べる・友達と話し合う等）を選択する「学びの最適化」を実践することで、より学びを活性化していくことが課題である。								
④ 目指す子ども像に達するための仮説	・ペアやグループで交流し、学習を進めることで、より学習意欲や考えが深まり、主体的に学ぶことができると考える。 ・学年や発達段階に応じて、最適な学びを選択できるよう授業改善を行い、自ら課題を設定したりゴールを明確にしたりすることで学びが活性化し、より主体的に学習に向かう力が付くと考える。 ・教師や友達だけではなく、地域の方々の協力を得ながら田植えや花植えなど様々な体験活動を実施し、学校と家庭・地域とのつながりを深めたり、異年齢との関わりを深めたりすることで、自分の存在価値に気付き、普段から自分を肯定的に捉え、他者と進んで関わろうとしたり、自分の考えを自由に話したりする力がつくと考え。								

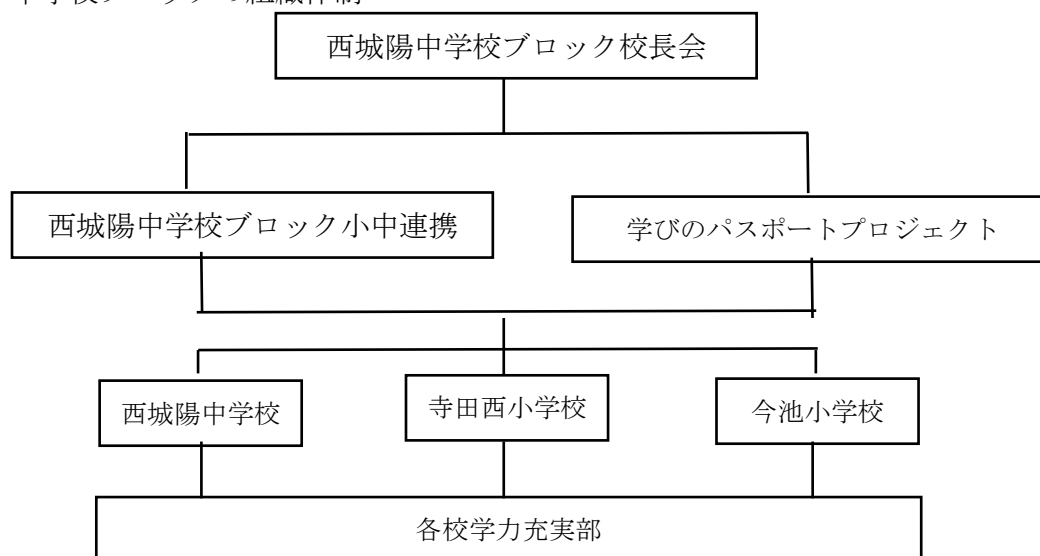
令和6年5月1日現在

【1 研究主題】

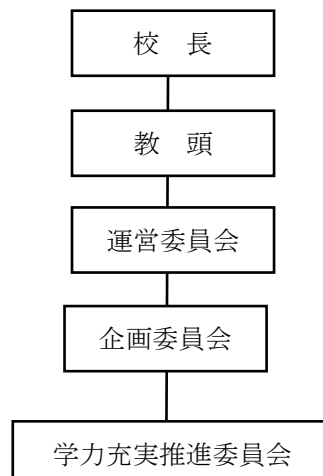
○自ら課題と向き合い、課題解決に向け、仲間と共に高め合える児童を育む授業づくり
○つながりプロジェクトをもとに豊かな人間性を身に付け、生きる力に結び付く行動力・実践力のある児童を育成する。

【2 研究組織体制】

(1) 中学校ブロックの組織体制



(2) 校内の組織体制



【3 研究計画・具体的な取組内容】

実 施 月	研究内容、研究方法、成果の公開 等
4 月	課題解決型学習（総合）について研修（府教委・山城教育局）
5 月	校内研修（研究授業、学び合いについて提案授業） 授業交流ペア参観 学びのパスポートプロジェクト①
6 月	校内研修（研究授業、指導主事）
7 月	効果的なICT活用研修
8 月	8月上旬＊学びのパスポート結果返却、第1回分析・活用研修会 西城陽中学校ブロック夏季合同研修会（学びのパスポートプロジェクト②）（講師招聘） I C T校内研修（講師招聘）教科学習等における活用研究 校内研修（学びのパスポート結果分析・授業改善について）
9 月	
10月	10月上旬＊第2回分析・活用研修会 校内研修（研究授業、府教委、センター、局、市）
11月	府小教研家庭科教育研究大会 公開授業、研究発表（西城陽中学校ブロック協力）

12月	校内研修（2学期の取組内容の振り返り、成果、課題検証、見直し） 学びのパスポートプロジェクト③
1月	I C T先進校視察（予定）
2月	校内研修（研究のまとめ、次年度への課題整理と計画） ＊研究校交流会（予定）
3月	

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
	45	自分の考えたことよりも、相手の方がよい考えを持っていると感じたときは、相手の考えを取り入れるほうだ。	思考の柔軟性	目指す子ども像
	30	自分の考えた道すじをほかの人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ。	自己調整	目指す子ども像
	59	普段の生活の中で、自分の考えを自由に話すことができる。	心理的安全性	西城陽中学校ブロック共通項目

＊5・6の分析の項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法 ○4年生A児童への具体的な指導・支援方法 ・本児を認めることのできる友達を作る。（教師が意図的に働きかける。） ・授業の中で意図的に本児が活躍する場面を作り出す。 ・本児が得意分野の話で周りの児童を引きつけるようにする。 ・担任が褒めて、周りの児童からの評価を上げ、周りからも認められるようにする。 ・根気強く本児と向き合っていく。 ○5年生B児童への具体的な指導・支援方法 ・自分で学習できる力を付ける。（家庭でもできるように） ・自己目標を立てさせる。 ・時間をかけて丁寧に取り組むことを心がけさせる。 ○6年生C児童への具体的な指導・支援方法 ・個別の声かけをこまめにする。 ・ほめる（積極的に活動することが好き。） ・不規則発言を減らして、心理的安全性の高い学級に近づける。 ・書くことが苦手であるので、I C Tを活用して負担を軽減し、学習内容に力を注げるようにする。 集団としての具体的な指導・支援方法 ・書くことが苦手な児童には、I C T（ロイロノート）を活用し、他の児童が書いた文章を見られるようにし、書くときの参考にできるようにする。 ・単元のはじめに、その単元で目指す力（ゴール）を明確にし、児童に示すことで児童が見通しをもって学習できるようにする。 ・学び合いの学習は、目的をはっきりさせ、学力が高い児童もそうでない児童も、学び合いが活性化する場を設定する。 ・友達と一緒に考えることによって学びが深まるような課題を設定する。 ・特別活動では、『児童主体』で、計画を立てる力や調整力・他者を思いやる力を育てる。
--

【8 仮説の修正】

- ① ペアやグループで交流する際には、**学び合いの目的をはっきりさせたり、交流によって学びが深まるような課題を設定したり**することで、学びが活性化し、自分の思いを表現したり深めたりすることができる。
- ② **係活動・清掃活動・委員会活動などの特別活動において、自分たちで計画を立てたり、自分たちで考えて行動したりする機会をもたせ、『児童主体』を意識して活動させる**ことで、教師の指示だけでなく、自ら主体的に行動できるようになると考える。
- ③ **一つ一つの活動に目的意識をもたせ、適切な課題設定をし、課題をステップアップしながらゴールを目指す活動を繰り返す**ことで、児童が向上心をもつことができると考える。
- ④ **教師や友達だけではなく、地域の方々や異年齢との関わりを深める**ことで、自分の存在価値に気づき、自分を肯定的に捉え、他者と進んで関わろうとしたり、自分の考えを自由に話したりする力が付くと考える。

【9 具体的な取組内容の修正】

授業改善

1 質の高い「発問」(問い) の設定

学ぶ意義・目的をはっきりとさせ主体的な学びにつなげる。

2 児童主体の活動

教師が教え込む授業から子どもたちによる協働的な学びの授業へ

3 ICTの効果的な活用

どのような活用が本時のねらいの達成のために効果的かを吟味して単元・授業づくりを行う。

学校行事・児童会活動

つけたい力を明確にする。児童主体の活動へ

心理的安全性のある学級作り・授業づくりを基盤として

【10 児童の変容（普段の様子から）】

- ・ 学び合いの目的をはっきりさせ、学力が高い児童もそうでない児童も、学び合いが活性化する場を設定することを意識して指導することで、これまでなかなか話し合いに参加できなかったり、学習に後ろ向きだったりした児童が前向きな姿勢をもつようになった。
- ・ 係活動、児童会活動など「児童主体」の活動をする中で、児童会は自分たちで計画して学校を動かすという積極性が出てきた。

【11 2年次の研究構想】

授業だけでなく、学校行事や児童会活動において、はぐくみたい非認知能力を明確にし、様々な場面で非認知能力を発揮できるようにする。
心理的安全性を基盤として自己調整や他者と進んで関わろうとする態度などの非認知能力を授業において発揮することを目指し、日々の授業に取り組んでいく。